

公害の歴史に学ぶ

～九州地方の環境化学 今昔～

戦後まもなく、高度経済成長期に入った1960年頃、九州地方では、熊本県水俣市で発生したメチル水銀中毒症である水俣病をはじめ、福岡県大牟田市のばいじん被害や北九州市の洞海湾の水質悪化等、多くの公害問題が発生しました。これらを契機に、公害防止を目的とした国・地方自治体による環境政策が実行され、大気・水質ともに環境が改善されていきました。そこで政策実行のための実態把握調査や科学的根拠に基づく対策の立案に大きな役割を果たしたのが、地方自治体が設立した地方環境研究所（地環研）です。とりわけ、環境研究あたって前例がない中、知恵を絞りながら問題に立ち向かった経験には、環境問題が地球規模化した令和の時代にも通じる、研究者としての心得やノウハウが数多く凝縮されていると思われます。

このたび、日本環境化学会九州・沖縄地区部会では、長年地方自治体と大学で環境研究の最前線でご活躍されてきた元北九州市職員である3名の先生方をお招きした講演会を企画しました。自治体職員当時の苦労話や、研究活動の面白さ、大学での教育研究活動等のご講演とパネルディスカッションを通して、参加者の皆様に今後の環境化学分野に求められるものとともにお考えいただく機会をご提供できればと思います。



古賀 実

水俣環境アカデミア所長
(熊本県立大学名誉教授)



門上 希和夫

北九州市立大学
名誉教授



篠原 亮太

熊本県環境センター館長
(熊本県立大学名誉教授)

日 時：令和7年3月6日（木曜日）13時30分～17時30分

場 所：九州ビル貸会議室 7階 7A会議室*

(福岡市博多区博多駅南1丁目8番31号)

主 催：一般社団法人 日本環境化学会九州・沖縄地区部会

定 員：80名（先着順）

参加費：無料

*: https://q-shu.resv.jp/support/support_shop.php

スケジュール

【受付開始】 13:00-

【開会】 13:30-13:40

挨拶・次第・先生方のご紹介

【講演】 13:40-16:40

「環境化学物質の分析技術と影響評価法の変遷」

古賀 実

水俣環境アカデミア所長（熊本県立大学名誉教授）

**「自動同定定量データベースシステム（AIQS）の
開発と環境分析への適用」**

門上 希和夫

北九州市立大学名誉教授

「これからの環境調査研究のあり方を考える」

篠原 亮太

熊本県環境センター館長（熊本県立大学名誉教授）

【パネルディスカッション】 16:50-17:30

上記講演者3名と学生を含む来場者との意見交換

【懇親会】 18:00-20:30（予定）

講演会後に博多駅周辺で懇親会を開催する予定

※会費及び出欠については、参加者向けに後日アナウンスいたします

参加を希望される方は**2月27日（木曜日）**までに、末尾担当までご連絡ください。また、講演会・懇親会についてお気づきの点、ご不明な点等ありましたら、お気軽にお問い合わせください。

【参加申し込み・お問い合わせ先】

日本環境化学会九州・沖縄地区部会講演会 担当責任者

宮崎 康平（福岡県保健環境研究所） ☒ megulion.dandelion+jec at gmail.com

阿草 哲郎（熊本県立大学） ☒ te-agusa at pu-kumamoto.ac.jp

※メールの際には“at”を“@”に変更いただき、送付ください。